

おばまじょうあと 14 小浜城跡

所在地：小浜市城内1丁目

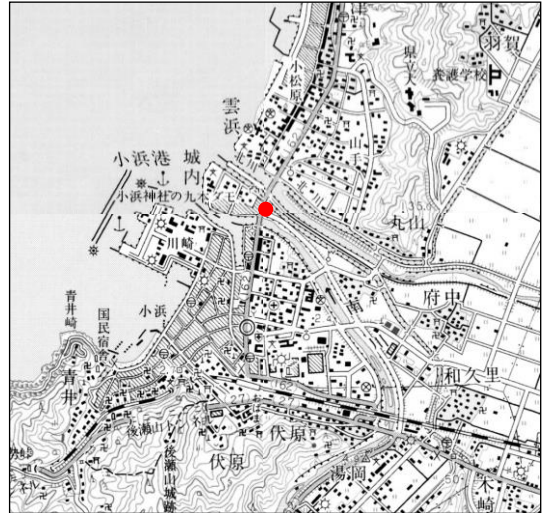
調査原因：一般国道162号道路改良事業

調査期間：令和3年5月～6月

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：I区 90 m² II区 140 m²

時代：江戸時代



位置図 (S=1/50,000)

遺跡について 小浜城は、北川・多田川と南川の河口に挟まれた三角洲に築かれた江戸時代の城です。慶長5(1600)年の関ヶ原の合戦後、小浜藩初代藩主である京極高次^{きょうごく たかつく}によって、後瀬山城^{のちせやま}から雲浜^{うんびん}の地に、拠点^{きょうこく}が移され築城を開始しました。小浜城は京極氏の時代には完成しませんでした。京極氏の後に小浜藩主となった酒井忠勝^{さかいただかつ}によって完成しました。

江戸時代後期の小浜城絵図によると、調査した場所は三ノ丸に該当し、米蔵^{こめくら}等の建物が描かれています。これまでの調査では、蔵の基礎の石垣と出入口となる張出しや蔵の造営によって破壊された石垣、三ノ丸石垣、大手門遺構^{おおてもん}などを確認しました。

主な遺構 令和3年度の調査区は2箇所に分かれており、それぞれI区、II区としました。I区は、小浜城絵図によると、本丸の堀の内部に該当します。調査の結果、小浜城跡に伴う遺構は確認できませんでしたが、近代の石列を確認しました。II区は、小浜城絵図によると、三ノ丸に該当しており、三ノ丸には米蔵や役所等の建物が描かれています。調査の結果、米蔵基壇^{こめくらきだん}に伴う石垣と蔵の出入り口と思われる張出しを確認しました。2列の石垣の間は、米蔵が存在していた空間ですが、建物に伴う礎石^{そせき}は確認できませんでした。南北石垣の間は約8mを測ります。

小浜城絵図によると、米蔵基壇は「六番蔵」に該当します。張出しはL字状を呈しています。南側の張出しは「六番蔵」に、西側の張出しは「七番蔵」に該当します。いずれも酒井家によって造られたものと考えています。

主な遺物 江戸時代のものが大半で、瓦と陶磁器が出土しました。(中島啓太)



图1 小浜城絵図（部分）【福井県立若狭歴史博物館所蔵】



写真1 I区全景（東より）



写真2 II区全景（北より）



写真3 II区六番蔵南側石垣